

APNG (Asia Pacific Networking Group)

1.組織の概要

最近、アジア太平洋地域でも、インターネット分野の活動は非常に活発だが、それはまだ一部の人々の間の話で、広く普及するには至っていない。そこで、アジア太平洋地域での健全なインターネットの発展を図る目的で、1994年に結成されたのが、APNG (Asia Pacific Networking Group) というボランティア組織である。このAPNGの初代代表は韓国KAISTのKilnam Chon教授が務めたが、1995年6月からは筆者がその任に就くことになった。当人にとっては、ささやかな国際ボランティア活動の一環というわけである。

このAPNGの目的は、アジア太平洋地域でのインターネットに関する情報交換、研究開発、連絡調整、普及活動などである。これを進めるためのWG (作業グループ) およびBoF (同好会) としては、次のようなものがある。

(1) i18n (国際化) [代表: (東工大) 太田昌孝]

このグループでは、インターネットで使う文字コードの標準化を研究している。米国人は英語以外には余り興味を示さないので、いろいろな言語が使われているアジア地区で研究する必要がある。マルチリンガルブラウザやWWWサーバーの開発にもこれが関係する。

(2) 発展途上国 [代表: (奈良先端大) 山口 英]

アジア諸国間をどうつなぐか、各国内でインターネットをどう発展させるかが論じられている。Internet World Expoへの期待も高い。

(3) 教育 [代表: (台湾) Nian-Shing Chen]

各国の小中高校でインターネットを教育にどう役立てているかについての情報交換を行っている。

(4) 福祉機器 [代表: (シンガポール国立大) Tan Tin-Wee]

96年のシンガポール会議で提案された。インターネットのブラウザ表示がグラフィックのため、目の悪い人はどうするかといった議論と、開発された機器のデモがあった。

(5) 倫理と法律 [代表: (シンガポール) Mary Greene]

これも新しいグループで、インターネット上の情報の規制をどう考えるかの議論や、各国の状況報告などが行われている。

2.活動内容

APNGの集まりは、年2回行われる。1回はINET会議*のときで、前回は95年6月にハワイで開かれた。もう1回はその後、半年たったあたりで、今回は96年1月22~24日の間シンガポールで開いた。1日目はセミナーで、Conrad氏によるアジア太平洋地域のインターネットの現状とAPNIC、Narayan氏によるビジネス利用、高田・出口氏によるマルチリンガルブラウザ/WWWサーバー、Tan Tin-Wee氏

・INET会議

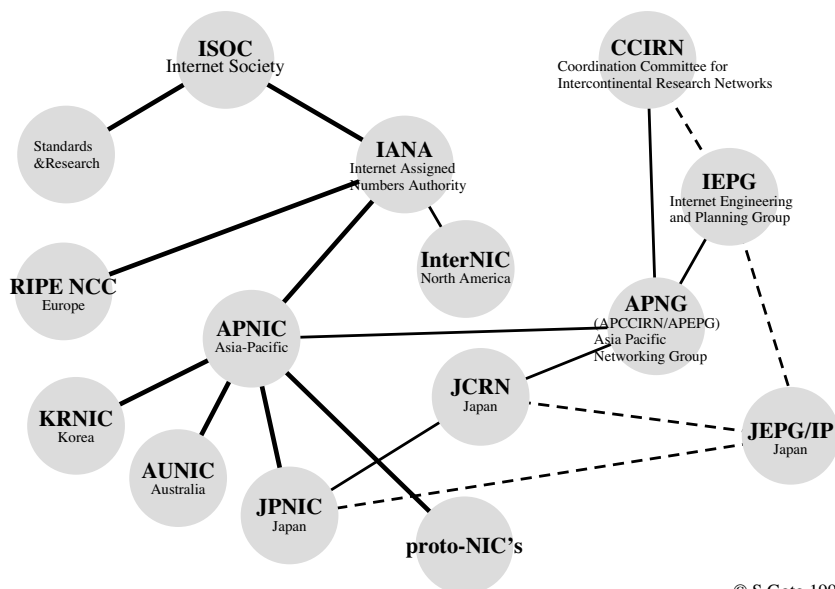
Internet Society (インターネット学会) が年に1回開催する国際会議。

によるマルチメディアWWWサーバーのデモ、Chon氏や村井氏によるInternet World Expo.などの講演があった。この内容は1994年8月に北京で行ったAPNGセミナーよりは格段に高度な内容で、約150人の参加があった。

2日目と3日目には、APNG総会とWGおよびBoFの集まりが行われた。WGとして新たに増えたのは、シンガポール発案の福祉WGと倫理WGであり、総会には、20か国から、100名以上の参加があり、盛会であった。今回参加国が多かったのは、日本（IAJなど）、韓国、台湾などから、初めて寄付集めをして、2万1,500米ドルの基金があったからである。これで、カンボジア、ラオス、フィリピン、中国、タイ、韓国などから15人ほどの人々を招待できた。会場には、APRICOT（プロバイダー団体）などの協力もあって、端末数台のターミナル室も設けることができた。回線はシンガポール・テレコム提供の128kbpsのISDN回線であった。

このAPNGは、関係者による国際ボランティア活動であるが、参加者の熱意からみて、こうした活動が重要なことは疑いがない。JPNIC関係の参加者も多いが、APNICへの支援と並んで、さらに広範なサポートが得られればありがたい。

（石田晴久）



© S.Goto 1995

図1 APNICとAPNG



[インターネット白書 ARCHIVES] ご利用上の注意

このファイルは、株式会社インプレスR&Dが1996年～2012年までに発行したインターネットの年鑑『インターネット白書』の誌面をPDF化し、「インターネット白書 ARCHIVES」として以下のウェブサイトで公開しているものです。

<http://IWParchives.jp/>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、データ、URL、名称など)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真・図の作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は掲載されていない場合があります。
- このファイルの内容を改変したり、商用目的として再利用したりすることはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用される際は、出典として媒体名および年号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレスR&D)などの情報をご明記ください。
- オリジナルの発行時点では、株式会社インプレスR&D(初期は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めました。すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接および間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

お問い合わせ先

株式会社インプレス R&D

✉ iwp-info@impress.co.jp